

ほし
クリスと星のかけら

だい かん へん
～第2巻メイク20編～



ち ほし あつ せ かい すく
「散らばった星のかけらを集めて世界を救え」

名前

[illegible]

<プロローグ>「^{ひかり}光と^{こおり}氷の^{はざま}狭間を^{こし}越えて」

かつて^{ほし}星の^{ちから}力に^み満ちていたこの^{せかい}世界は、

いま^{こおり}氷に^と閉ざされ、^{しず}静かに^{ねむ}眠っている。

しかし、^{ほしほし}星々はまだどこかで^{またた}瞬き、

^よ呼びかけていた—

「もう一度、^{いちど}私^{わたし}たちを^み見つけてほしい」と。

クリスは新たな^{あら}星の^{ほし}気配に^{けはい}導かれ、^{みちび}

より^{ひろ}広く、より^{ふか}深い^ち地へと^{たび}旅を^{つづ}続けていた。

^{やま}山を^こ越え、^{もり}森を^ぬ抜け、^{うみ}海の^{そこ}底へ——

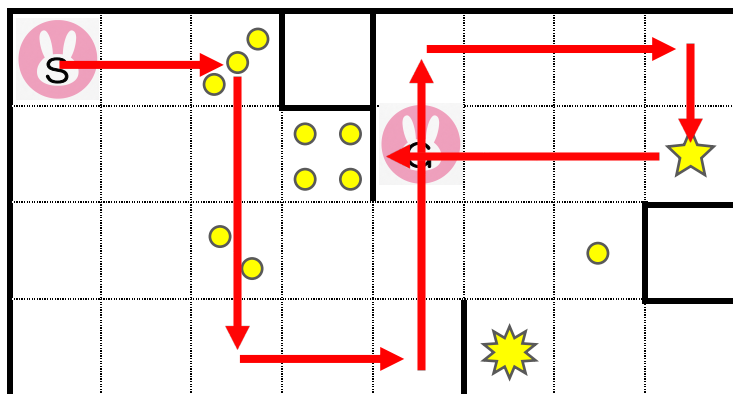
^{たび}旅の^{ふたい}舞台は、^{ひかり}光と^{こおり}氷が^{ふくざつ}複雑に^{こうさ}交差する^ち地。

^い凍てつく^{せつげん}雪原の^{おく}奥に、^{いっしゅん}一瞬だけ^さ差し込む^こ

^{やわ}柔らかな^{ひかり}光。

その^{はざま}狭間にこそ、^{ほし}星の^{ねむ}かけらは眠っている。

<例>



★ : 10、→ : 7



…スタート, …ゴール

^{ほし}星のかけら

1,2,3,4… ●, ●, ●, ●, ●

5,10… ★, ★

^{じょうげさゆう}上下左右に^{すす}進めます。マス目^めは^{すべ}全て

^{こおり}氷の^{ゆか}床で、^{かべ}壁(太線)に^あ当たるまで^と止

まれません。止まったら^{ほうこうてんかん}方向転換が

できます。ゴールも^{どうよう}同様に、ゴールの

^{うし}後ろに^{かべ}壁がなければ^{つうか}通過してしま

います。合計で「Star」の数分、^{かすぶん}星の^{ほし}か

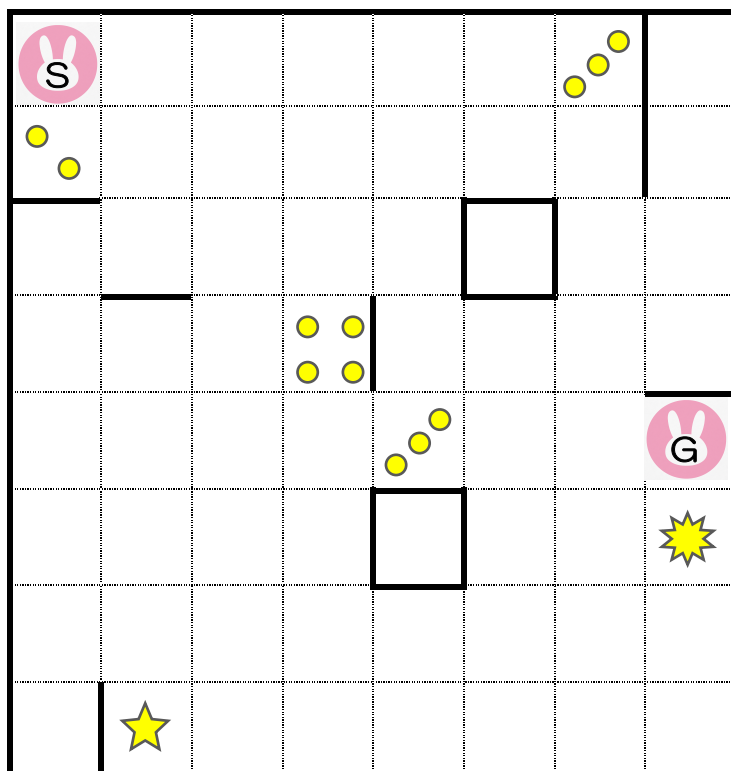
けらを^{あつ}集め、「Move」の^{いどうすう}移動数で

ゴールしましょう。

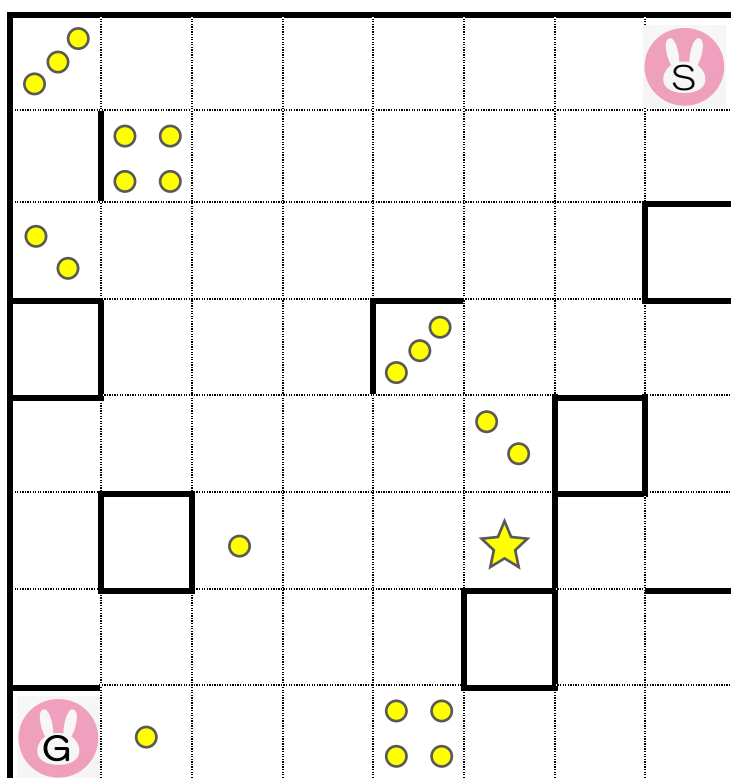
<エピソード1：やぎ座>

しろ こうや あしあと みちび
～白き荒野と足跡の導き～

こおり と しず せつげん こお けものみち
氷に閉ざされた静かな雪原。凍った獣道の
あしあと う あ そら
ような足跡がぼんやりと浮かび上がる。空に
ざ ほし かがや すがた ほし
はやぎ座の星が輝き、その姿が星のかげら
あつ もの みちび み
を集める者を導くかのように見える。



Star : 11、Move : 9



Star : 12、Move : 12

ふか ゆき あし と まえ
クリスは深い雪に足を取られながらも、前を
み す あゆ つづ そら ざ ち
見据えて歩み続ける。空のやぎ座と地の
あしあと りょうほう みちび さき
足跡、その両方に導かれながら、「この先
こた しん
に答えがある」と信じている。

<エピソード2：おひつじ座>

～夢みる牧場と小屋の幻影～

氷に覆われた草原の牧場跡地。かつて命

が満ちていたこの場所は今は凍りつき、ただ

星の光だけが暖かさを残している。遠くに

はぽつんと佇む小屋。風の音だけが響く



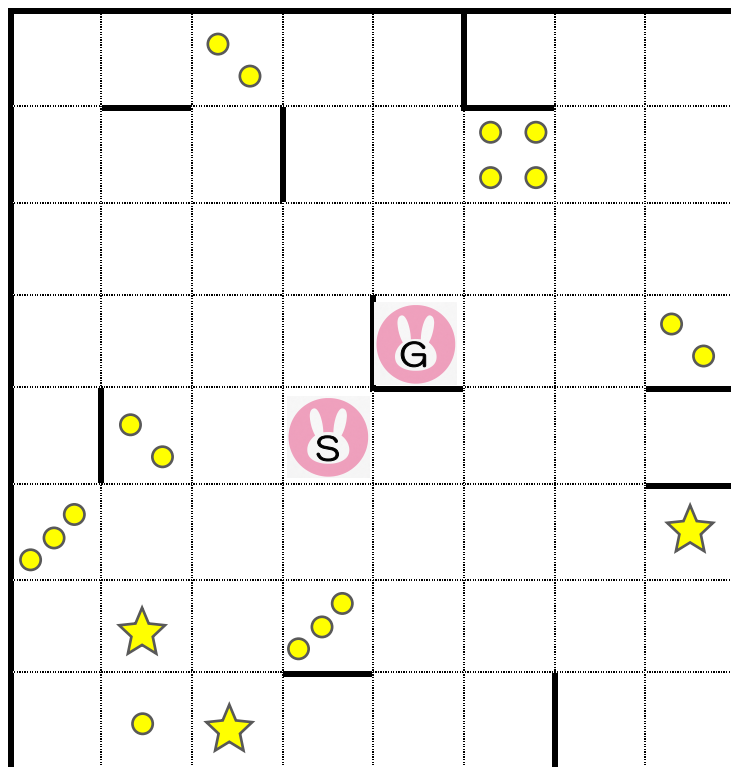
クリスは杖を掲げると、目の前におひつじの

幻影が姿を現す。それはただの幻ではなく、

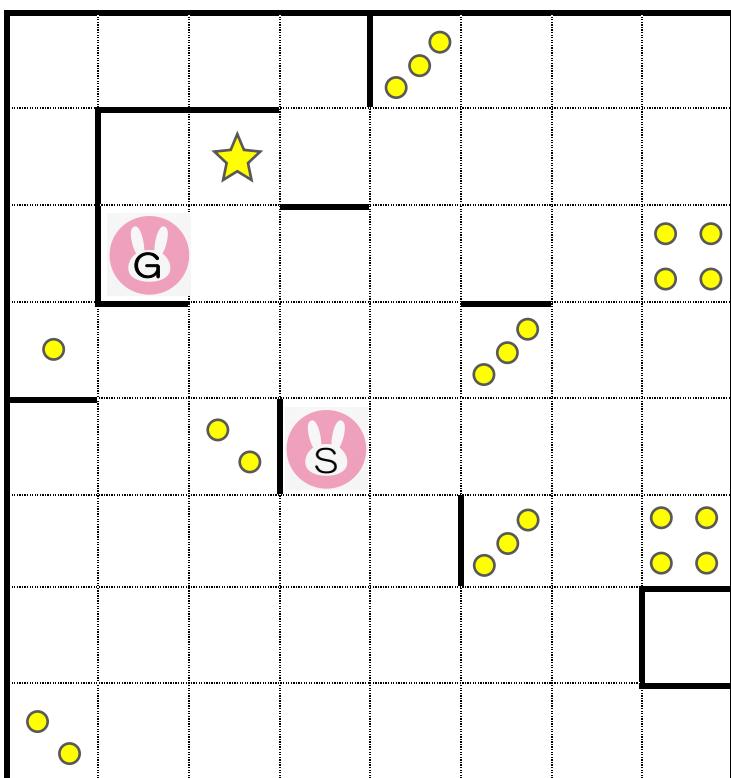
この地に残された記憶のようにも見え

る。クリスは失われた温もりと星の加護を、

この地に呼び戻す決意を固める。



Star : 13、Move : 9



Star : 16、Move : 11

<エピソード3：おとめ座>

～静寂の祈りと暖かな光～

青い氷柱がそびえ立ち、空気すら凍るよ

うな神秘の空間。中央には祈りの台座と星

のかけら。かつてこの地に祈りを捧げた星

の乙女の幻影が浮かび上がる。

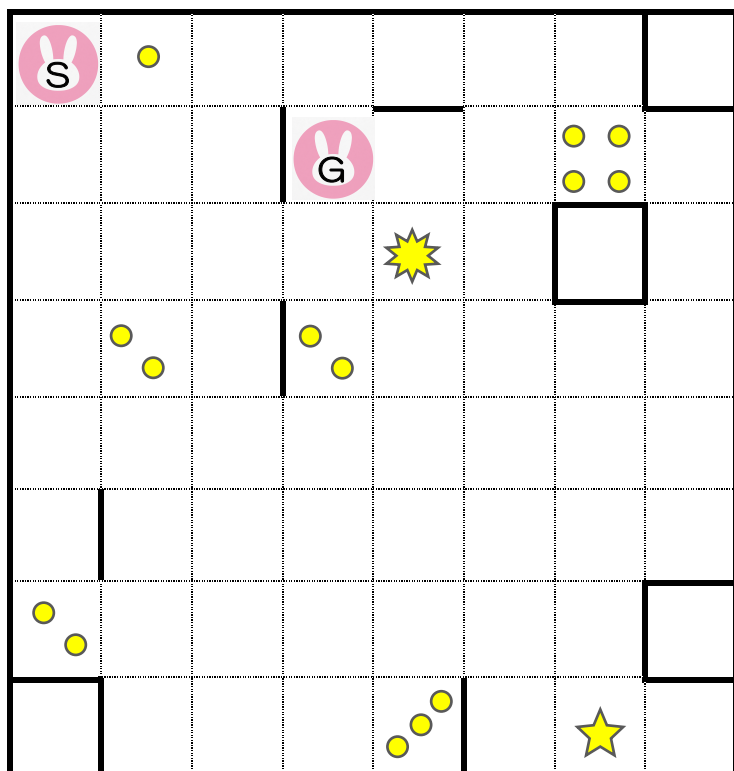


クリスは目を閉じ、そっと両手を胸の前で

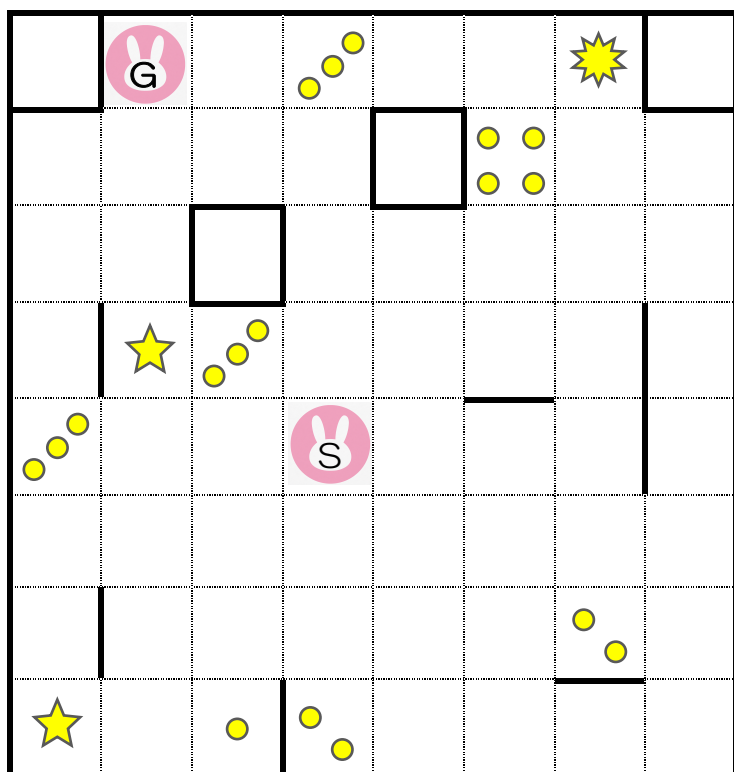
重ねて祈っている。クリスの祈りに呼応す

るように、星の乙女の像が光を放ち、かけ

らが暖かく輝き始める。



Star : 15、Move : 10



Star : 16、Move : 12

＜エピソード4：てんびん^さ座＞

てんびん しんぱん ひitori じぶん
～天秤の審判ともう一人の自分～

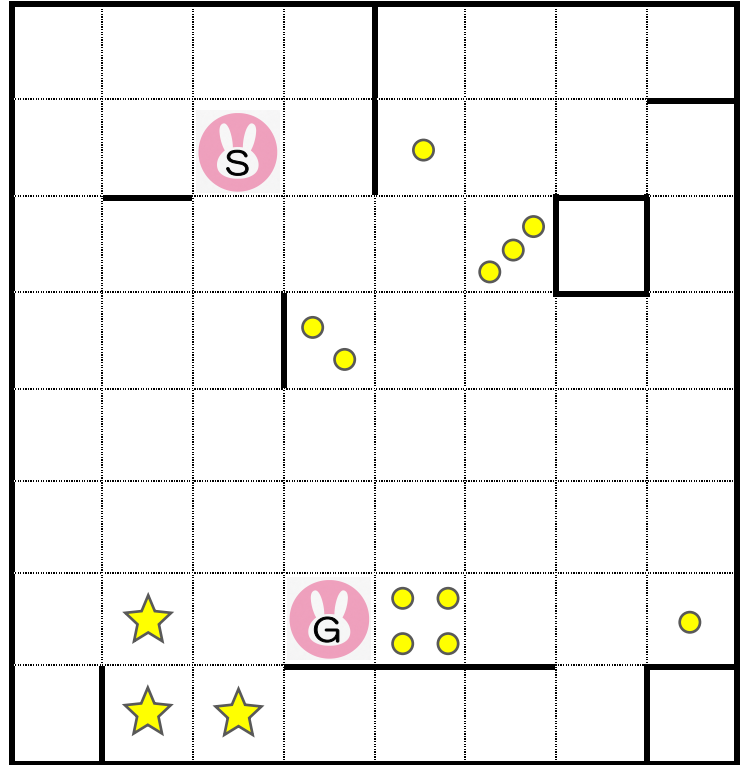
たそがれ そら した た きよだい てんびん そう かたがわ
黄昏の空の下に建つ巨大な天秤の像。片側に

は氷に閉ざされたもう一人のクリスの幻影

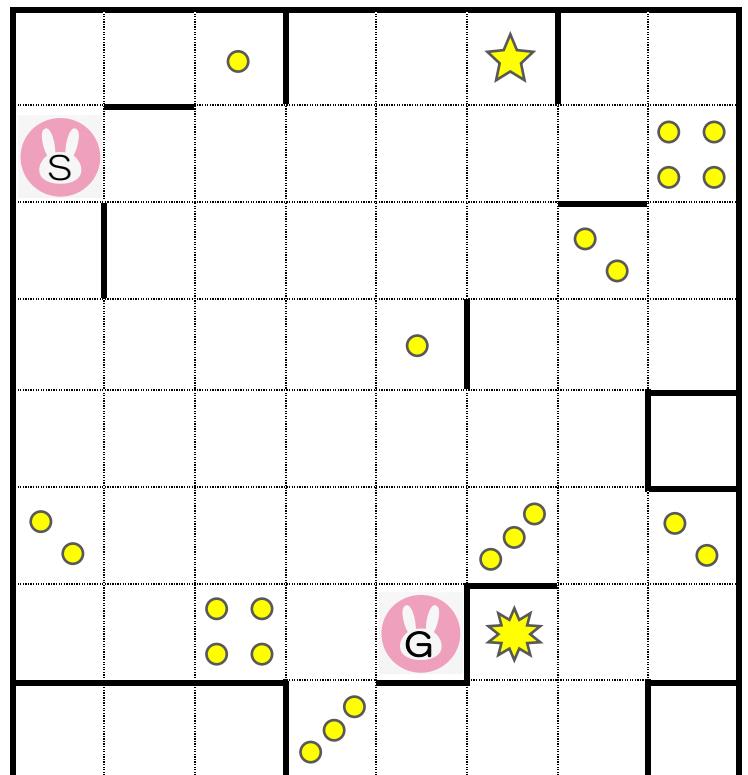
が、もう片側には星のかげらが乗っている。

すべてが^{しず}静止しているかのような^{くうかん}空間で

じかん
時間だけが過ぎていく。



Star : 17、 Move : 9



Star : 18、Move : 11

クリスは、冷静なまなざしで天秤を見つめて

いる。顔には葛藤も迷いも見えず、ただ受け

い おだや つよ やど
入れるような 穏やかな強さが宿っている。

<エピソード5：うお座>

うみ ゆめ ほし ねむ しんでん
～海の夢と星の眠る神殿～

しんかい ひろ げんそう せかい ひかり さ こ
深海に広がる幻想の世界。光が差し込む

すいめん おくふか こだい すいちゅうしんでん しず
水面の奥深くには、古代の水 中 神殿が静か

ねむ しゅうい さかな
に眠っている。周囲にはクラゲや 魚 たちが

ただよ せかい ゆめ つつ
漂い、世界がまるごと夢に包まれたような

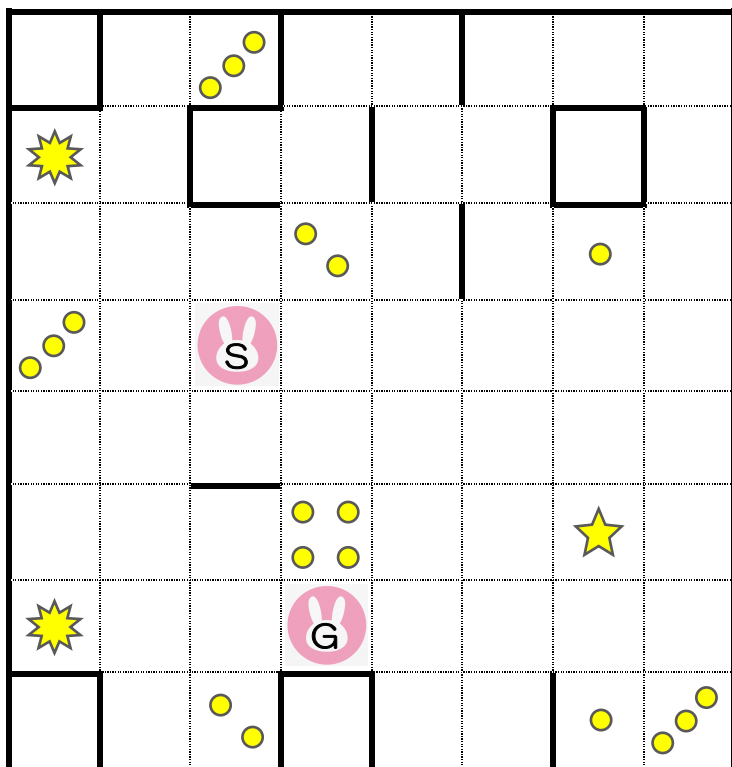
しず み
静けさに満ちている。



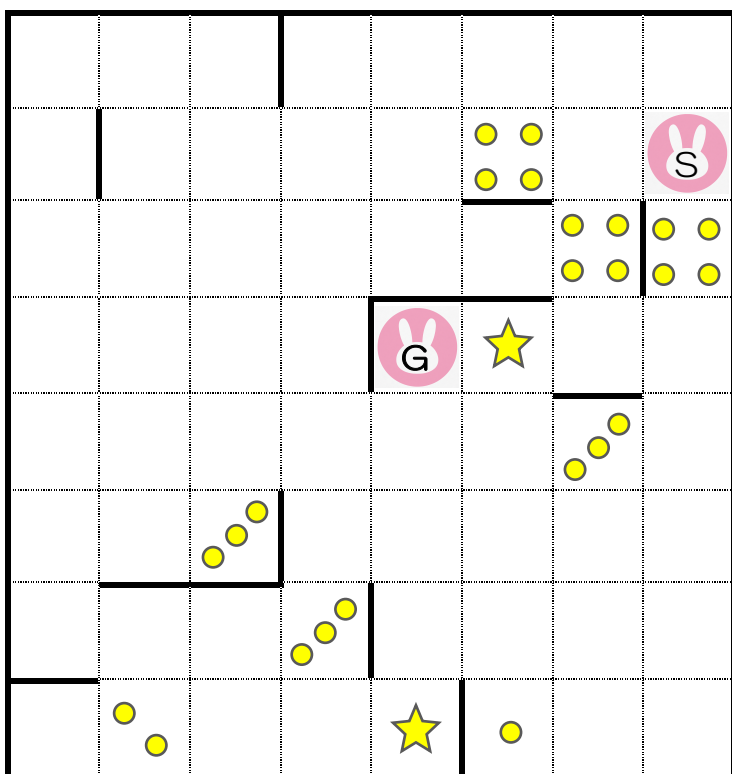
みす なか おだや ひょうじょう たも
クリスは水の中でも 穏 やかな 表 情 を保

ほし つえ たすさ しず う
ち、星の杖を携えて静かに浮かんでいる。

め と ほし みちび かん すす つつ
目を閉じ、星の 導 きを感じ、進み続ける。



Star : 19、Move : 10



Star : 20、Move : 13

＜第2巻 エピローグ＞

こうして、クリスはふたたび5つの星のかけらを手に入れた。その一つひとつが、
旅の記憶となり、胸の奥でやさしく輝いている。

けれど空を見上げるクリスの表情は、まだ終わりを告げていなかった。

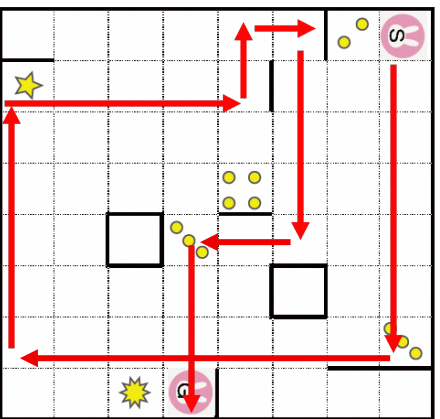
「星のかけらは、すべてではない。」そのことを、もう心で知っていたのだ。

遠く、凍てつく大地のさらに向こう一かつて星が最も輝いていた、星の見える峠

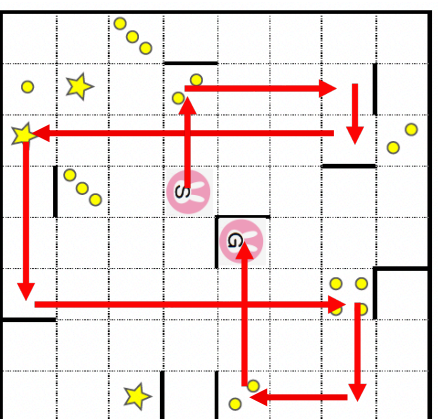
そこには、まだ知らぬ星座が眠り、クリスを待っている。「集いし星、まだ見ぬ空へ」



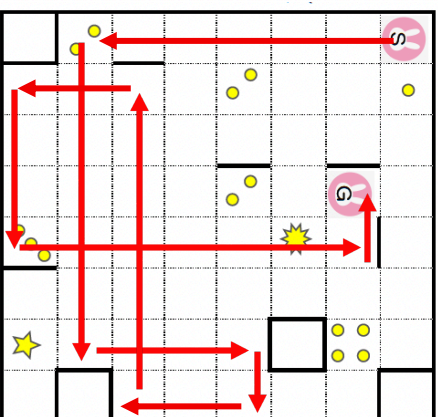
Ep 1,



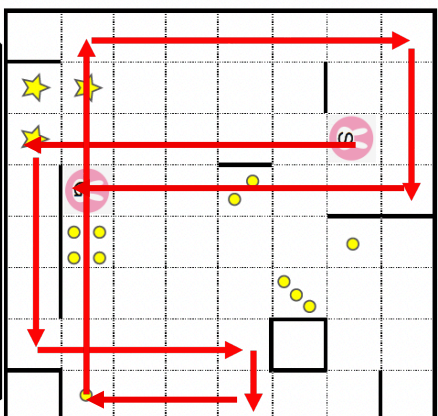
Star: 11, Move: 9



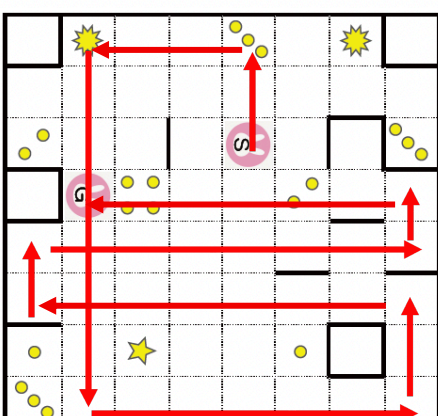
Star: 13, Move: 9



Star: 15, Move: 10



Star : 17, Move : 9



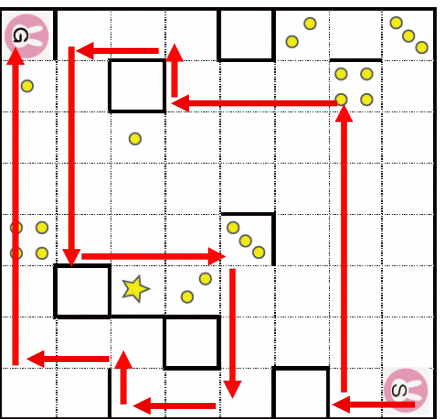
Star: 19, Move: 10

EP2,

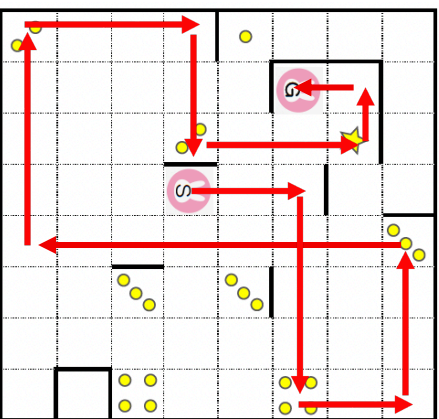
Ἐὐὼ

Ep 4,

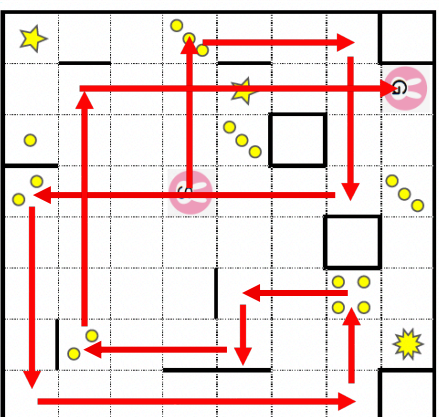
EP 5,



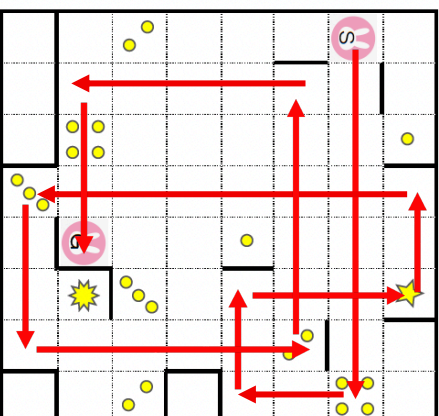
Star: 12, Move: 12



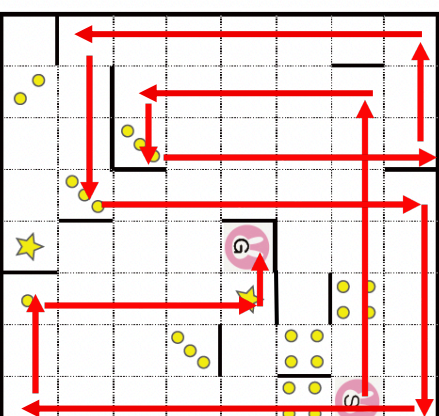
Star: 14, Move: 11



Star: 16, Move: 12



Star: 18, Move: 11



Star: 20, Move: 13